

◎海外森林・林業講座◎

おわりに

ボルネオ島の有蹄類は、氷期の海水面低下の際に出現した大陸棚、スンダランドを經由して、大陸から移動してきた動物である。そして氷期終了に伴う海水面の上昇により、マレー半島、スマトラ島、そしてボルネオ島は隔離され、現在の分布の元が形成された。その後、各々の地域は、土壌や植生といった自然要因に加え、狩猟や森林伐採などの人為的な要因の影響を強く受けながら現在に至る。今日、どの地域においても、森林の大部分は木材の切り出しが可能な商業林で、保護林の占める割合は非常に低い。ボルネオ島をはじめとするスンダランド由来の有蹄類が、今後どのような運命をたどるかは、生息

地である森林、特に商業林を適切に管理して行くことにかかっている。現場への研究者の参加、そこから実践的な政策案の提示と長期的なモニタリングの実施、そして現地の人材育成を進めることが大事であろう。私もその一人として関わって行きたい。

〔参考文献〕 Davies, G. and Payne, J.B. (1982) A faunal survey of Sabah. WWF Malaysia, Kuala Lumpur. IUCN (2008) 2008 IUCN Red List of Threatened Species. <http://www.iucnredlist.org>. Leslie D.M.JR. (2011) *Rusa unicorn* (Artiodactyla : Cervidae) Mammalian Species 43 (871) : 1-30. 松林尚志 (2009) 熱帯アジア動物記. 東海大学出版会. Sukumar R. (2003) The living elephants : evolutionary ecology, behavior, and conservation. Oxford University Press

図書紹介

熱帯林の紛争管理—保護と利用の対立を超えて

原田一宏著

原人舎発行, A5版 262頁, 2011年, ¥2,500+税

2011年は国際森林年です。今回の国際森林年のテーマは、Forests for People (人々のための森林)です。本書は、「人々のための森林」について考えさせてくれる一冊です。原田さんは、インドネシアのグヌンハリムン・サラック国立公園をフィールドに、その内外で暮らす人々と国立公園の関係を見つめ続け、よりよいありかたを模索されています。同書はこれまで原田さんが学会誌等に発表された10

編の報告をもとに加筆修正を加えたもので、これまでは一部の学会員にしか目にとまらなかった(散在していた)研究成果が、一連のものとして読めるようになっています。

本書の内容は、1章森林破壊へのプレリュード、2章保護地域をみる視座、3章森林破壊のアンチテーゼとしての保護地域、4章政府による保護地域の管理、5章国立公園とともに暮らす地域住民の生存戦略、6章第三者としてのNGOの介入、終章保護地域をめぐるパラダイム転換—生物多様性保全から地球温暖化防止へ、から構成されています。ご一読いただければ幸いです。

(藤間 剛)